

もつと知りたい、健康のこと。

日赤News

ほっとニュース

ANAグループより

「すずらんのしおり」を患者さんのもとへ



information

第1回市民公開講座

「市民のみなさんともっとクロス!」
開催のご案内

しづおかクロス NAVI

抗がん剤による脱毛を抑制する
頭部冷却装置を導入

[特集]

諦めなくても大丈夫

慢性副鼻腔炎の 新たな治療法

2023年度 着任医師の訂正について

静岡赤十字病院広報誌
2023年・夏号
vol.367
[季刊発行]

写真は当院で働くスタッフが毎号出ます。

注目の
トピックス

今号のテーマ: 慢性副鼻腔炎

諦めなくとも大丈夫

慢性副鼻腔炎の 新たな治療法

長年悩まされている人の多い「慢性副鼻腔炎」。2017年に一部の中等症以上の症状が難病指定されたこと、さらに新たな治療薬が登場したこと、現在はより高度な治療が受けやすい状況になっています。諦めていた方ももう一度、治療を受けてみませんか。

教えて
ドクター
Q & A

耳鼻咽喉科
川崎 泰士 部長

柔らかな口調が印象的な川崎先生。休日の過ごし方には「料理かな。あまり凝ったモノは作りませんけど、例えば子どもたちと一緒にカレーを作ったり」。お話の中から優しいパパぶりも伝わってきました。

Q 副鼻腔炎を悪化させないために、普段から気をつけておきたいことはありますか。

A 風邪で鼻がつまるることはよくあることですが、特に喘息の症状を持っている人は好酸球性副鼻腔炎を発症するケースも多いので気をつけて。軽い鼻づまりの場合には、温めた生理食塩水を使った鼻洗浄（鼻うがい）も症状緩和に有効、ただし正しいやり方に注意すること。市販の器具を使うのもいいですね。また寝ているときの呼吸の様子を、家族に聞いてみるのもおすすめ。睡眠中は鼻で呼吸するのが普通ですが、口呼吸や、ひどいびきが指摘されるようであれば、これも一度診療を受けてみてもいいかもしれません。

Q アレルギー性鼻炎に悩んでいます。こちらの「アレルギー外来」ではどのような治療の選択肢がありますか。

A 一般的なアレルギー治療には、内服薬・点鼻薬の投薬指導の他、体質改善による治癒を目指す舌下免疫療法があります。症状がひどい場合には手術を行うこともありますし、近年では「ヒト化抗ヒトモノクローナル」という抗体製剤を用いた注射による治療を行うことも。当院ではこれら全ての治療が可能、手術についてはいわゆる「後鼻神経切断術」まで対応しています。10年ほど前からアレルギー性鼻炎はスギ花粉症を中心に20代以下の若年層で増加傾向がみられます。気になる症状があればお気軽にご相談下さい。



身近なようで案外知らない 「慢性副鼻腔炎」

「慢性副鼻腔炎」とは、以前は「蓄膿（ちくのう）」と呼ばれていた病気。常に鼻がぐずぐずしている、いわゆる「青っぽい」のイメージがあるかもしれません。

副鼻腔炎は大きく、急性と慢性に区別されます。急性副鼻腔炎は主に細菌やウイルス感染により鼻腔が炎症を起こし、これにより副鼻腔（前頭洞・篩骨洞・蝶形骨洞・上顎洞。下図参照）からの粘液排出がうまくいかなくなり、副鼻腔内の粘液に細菌やウイルスが繁殖して膿がたまるというものです。症状が進むと、眼や頬のあたりに痛みが出ることもあります。

現在は抗生素による治療が進んで、急性副鼻腔炎の治療はかなりスムーズに行われるようになつていますが、中には症状がなかなか治りきらないケースもある。3ヶ月以上続く場合は慢性副鼻腔炎として、手術など別の治療法を検討します。

医療工学の飛躍的な進歩で 低侵襲な手術が可能に

顔の中央にある鼻の手術に抵抗を覚える人もいますが、現在では鼻の疾病で行われる手術はほとん

どが内視鏡手術。鼻から内視鏡を入れ、鼻腔内にできたポリープ（鼻茸）を切除したり、病変を取り除いて詰まつてしまつた副鼻腔をひとつにつなげたり（単洞化）といった処置を行います。

単洞化手術の場合、所要時間は3～4時間程度で、入院は1週間程度。近年は医工連携が進んだおかげで、ナビゲーションシステムで脳や眼の周囲の位置を確認しながら手術を行うことはごく普通になつています。脳に近い部位の鼻副鼻腔腫瘍も鼻内手術で低侵襲に行えるようになるなど、技術は大きく進歩しています。

難病・好酸球性副鼻腔炎も 新薬登場で新たな光が

特にここ最近増えているのが「好酸球性（こうさんきゅうせい）副鼻腔炎」。ごく簡単にいえばアレルギーによって引き起こされる慢性副鼻腔炎です。

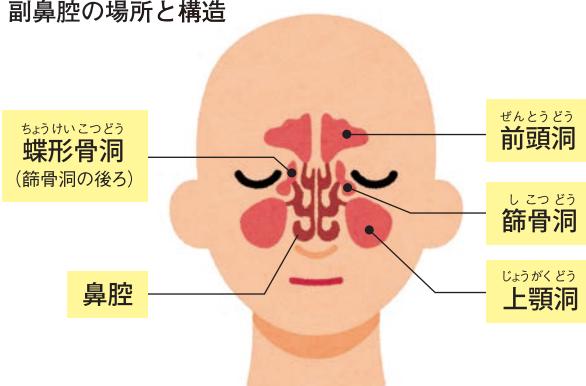
一般的な慢性副鼻腔炎は抗生素と内視鏡手術でかなり治りますが、アレルギー反応が関わる好酸球性副鼻腔炎では、手術をしても再発しやすく、根治はなかなか難しいとされていました。しかし2017年にこの疾患のうち、中等症～重症の患者さんが指定難病に認定されるようになり、さらに2020年からは

鼻茸（鼻ポリープ）を伴う好酸球性慢性副鼻腔炎に対し、IL-4とIL-13*のシグナル伝達を阻害する新規治療薬が使えるようになりました。これまで難しかった嗅覚障害の改善が期待できるようになりました。

つまり難病指定と新薬の登場によつて、根治が難しかった慢性副鼻腔炎も、適切な治療が受けやすくなつたのです。薬剤の投与には一定の適応基準がありますが、2017年以前に慢性副鼻腔炎の手術を受けた方で、現在も症状にお悩みの方はぜひ当院にご相談いただければと思います。

*IL-4とIL-13：体内の異物の侵入を伝えるサイトカインと呼ばれる物質。アレルギー反応の原因となる免疫クロブリンの生成を促す働きをする。

副鼻腔の場所と構造



INFORMATION

2023年度 着任医師の訂正について

日赤News vol.366にてご案内した2023年度着任医師に一部誤りがあり、4月1日付にて初期臨床研修医として右記14名が着任しております。あらためてよろしくお願ひいたします。

相沢 航平	中 洋仁
大東 龍生	前田 千恵子
金村 綺音	矢野 聰士
國弘 治豊	山口 聰太
櫻井 丸巳	山崎 浩平
鈴木 康史	山村 韶
諏訪 弘治	富田 巍

表紙を飾った静岡赤十字病院スタッフ

助産師 左より
西岡恵美さん 鈴木杏那さん



命の誕生に直接携わる助産師の仕事。リスクを伴う分娩では時に厳しい指導が必要な場面もありますが「患者さん自らの意思で行動を変えることが大切」「それぞれの立場に寄り添ったアプローチを常に考えています」とお二人。息の合ったやりとりからチームワークの良さが伺えます。



ANAグループより

「すずらんのしおり」を患者さんのもとへ



去る5月24日、ANAグループ(全日本空輸株式会社)より、当院に入院されている患者さんのもとに、今年もすずらんの香りの「しおり」と、北海道千歳市近郊で栽培されたすずらんのブーケが届きました。

この活動は、毎年すずらんの季節である5月頃、日本赤十字社の関連51施設で行われているもの。当院では富士山静岡空港の開港にあわせて2009年から始まり、今年で15回目を迎えました。

ANA客室乗務員の方から患者さんへと直接しおりを手渡しする贈呈式は、残念ながら今年も新型コロナウイルス感染防止のため行われませんでしたが、いただいた「しおり」は当院を代表して小川院長と下山看護部長が受け取り、入院されている患者さんひとりひとりの手元にお届けしています。

「再び幸せが訪れる」との花言葉をもつすずらん。その清楚な香りと、ANAグループの職員の方々からしおりに込められたメッセージが、皆さんの回復への励みとなりますように。



以前行った
北海道旅行の思い出が
蘇りました

INFORMATION インフォメーション

第1回市民公開講座 「市民のみなさんともっとクロス!」開催のご案内

今年開設より90周年を迎える当院。地域で真に必要とされている情報を提供し、必要な時に迷わず選んでもらえる病院となるため、今年度より「市民公開講座・市民のみなさんともっとクロス!」を開始します。第1回は多くの方にとって身近な「膝痛」について、当院整形外科の窪田・中根両医師が解説します。ぜひお気軽にご参加下さい。

[テーマ] 高齢者のひざの痛み～変形性膝関節症を中心に～

講演1
基本編



整形外科副部長
窪田秀次郎

講演2
治療編



整形外科医師
中根弘孝

日時：9月13日(水) 14:00～15:30

会場：札の辻クロスホール 静岡市葵区追手町1-30 札の辻クロス6階(伊勢丹向かえ)
定員：50名 参加費：無料

往復ハガキまたはメールによる事前申し込みが必要です。

●往復ハガキの場合

往信面に①氏名 ②住所 ③電話番号 ④ひざの痛みについての質問(あれば)、返信面に返信用宛名を記載し、当院総務企画課までお送り下さい。

●メールの場合

件名を「市民公開講座参加申込希望」とし、①氏名 ②住所 ③電話番号 ④ひざの痛みについての質問(あれば)を明記の上、kikaku@shizuoka-med.jrc.or.jpまで送信して下さい。

暮らしに役立つ情報をおとどけ しずおかクロス NAVI

乳がん治療のストレスを軽減!
抗がん剤による脱毛を抑制する
頭部冷却装置を導入

日本人女性の罹患率が非常に高い乳がん。当院乳腺外科では本年4月より、当院で抗がん剤治療を行う乳がん患者さんのための頭部冷却装置「PAXMAN」を導入しました。

これは抗がん剤による化学治療の副作用で生じる脱毛や髪質悪化を軽減させるための装置。頭部に装着したキャップに冷却液を流し、頭皮温度を約19度に保つことで頭皮への血流が減少、毛包に届く抗がん剤の量が減ることで脱毛の抑制が期待できるというものです。

今後ますます増加が想定される乳がんにおいてQOLの改善は大きな課題。患者さんができるだけストレスなく治療を続けていただけるよう、努力してまいります。

